

Labour market transitions for female workers in Japan  
: the role of global competition

要 約

南山大学 岸 智子

日本の労働市場は 1990 年以降、経済のグローバル化によって大きく変化したと考えられているが、個々人の就業行動に対する国際競争の影響はあまり分析されていない。本研究では、家計経済研究所の「消費生活に関するパネル調査」の第一回(1993 年)から第 12 回(2004 年)までの個票データと『国民経済計算』などのマクロデータをリンクさせ、一人の女性が正社員から無業者や非正規労働者へ、または逆に非正規労働者から正社員に移行したりする過程において、所属する産業の輸出入依存度、直接投資比率や経済全体の開放度がどのような影響を及ぼしているかを分析した。その結果、勤め先企業が属する産業の輸出入依存度や直接投資比率の上昇は女性の正社員から無業者、非正規労働者への移行を促すが、KOF 指標で表される経済全体の開放度はむしろ、女性の無業化や非正規化にマイナスの影響を及ぼしていることが確かめられた。